

ダニ媒介感染症（SFTS）患者の発生について

- 本日、ダニ媒介感染症である重症熱性血小板減少症候群（SFTS）の患者が確認されましたのでお知らせします。
- 春から秋にかけてはマダニの活動が活発な時期ですので、府民の皆さまに対して注意喚起をお願いします。

1 患者の概要

- (1) 年齢・性別等 60歳代、女性、丹後保健所管内在住
- (2) 症 状 発熱、全身倦怠感、下痢、食欲不振 等
- (3) 患者の状況 医療機関に入院・加療中

2 ダニによる感染の予防について

春から秋にかけては、山や草むらなど野外での活動機会が多い季節です。

野山のダニによる感染を予防するため、次のことに注意しましょう。

- マダニは、主に草むらや藪・森林にいます。このような場所で長時間地面に直接寝転んだり、座ったりするのは止めましょう。
- 草むらなどに入るときは、長袖、長ズボン、手袋、長靴等を着用し肌の露出を少なくしましょう。また、色の薄い服を着用することで、くっついたダニを見つけやすくなります。
- ダニをよせつけないために、肌の露出部分や服にDEET（ディート）などの有効成分が含まれた虫除け剤の使用も有効です。虫除け剤は皮膚の露出部に使うか、衣服の上から使います。
- 屋外活動後は入浴し、マダニに刺されていないか確認してください。

3 マダニ類に刺されたら

- 無理に引き抜こうとすると、マダニの一部が皮膚内に残ったり、ダニの体内や傷ついた皮膚からでてくる液体に病原体がいる可能性があるため、できる限り直接手でダニを取ったり、つぶしたりせず、すぐに病院で処置してもらいましょう。
- マダニに刺された後に、発熱等の症状が認められた場合は、早めに医療機関を受診してください。

【重症熱性血小板減少症候群（SFTS）とは】

SFTSは、SFTSウイルスに感染することで引き起こされる病気で、ウイルスを保有しているマダニに刺されることで感染します。

潜伏期間は6～14日。症状は発熱、消化器症状（食欲低下、嘔気、嘔吐、下痢、腹痛）が多く、血小板減少、白血球減少、血清酵素（AST、ALT、LDH）の上昇が認められます。

致死率は10%～30%と報告されていますが、致死率の改善が期待される抗ウイルス薬（ファビピラビル（商品名アビガン錠））が令和6年6月に承認されています。

4 本府の対応

- ・電話相談窓口の案内

健康対策課 電話番号 075-414-4723（土日祝日を除く 9 時～ 17 時）

丹後保健所 電話番号 0772-62-4312（土日祝日を除く 9 時～ 17 時）

なお、電話相談窓口が閉まっているときは、救急安心センターきょうと（電話 # 7 1 1 9）などを御活用ください。

- ・府ホームページ「感染症緊急情報」に関連情報を掲載

(<https://www.pref.kyoto.jp/kentai/260903kansenkinkyuu.html>)

参考：京都府内におけるこれまでの報告

令和 4 年	令和 5 年	令和 6 年	令和 7 年
1 件 (推定感染地：京丹後市内)	1 件 (推定感染地：宮津市内)	1 件 (推定感染地：京丹後市内)	1 件 (推定感染地：京丹後市内)

【本報道発表に関するお問合せ】

健康福祉部健康対策課

参事 山下

電話 075-414-4735

京都府立健康
まゆぎろ

